

SONORA CX コストダウンと 時短・省力化に貢献

株式会社シーズクリエイト



高い視認性を評価して完全無処理 CTP プレート SONORA CX の導入にチャレンジ。現在は 2 台の CTP で月平均 15,000 ~ 18,000 版を出力し、無処理化によるコスト削減効果は年間 300 万円。

大量印刷から小ロット・多品種・短納期の チラシ印刷で大きく成長

大阪府八尾市に本社／工場を構える株式会社シーズクリエイトは、チラシ印刷に特化して成長を続けている総合印刷会社である。B 縦半裁オフセット輪転機を 6 台保有し、B4 両面カラーチラシなら日産 2,600 万枚の印刷が可能。折込チラシの生産能力では西日本最大級を誇る。フル APC（自動刷版交換装置）や全台に設置した品質検査装置による印刷工程の自動化にも意欲的に取り組み、多品種・小ロット化が進むチラシニーズにいち早く応えている。極小ロットから大量印刷、制作から配送業務までワンストップの生産体制を構築し、365 日 24 時間、西日本から関東エリア、さらには全国まで、お客様の「なんとかして欲しい」

「機上現像による湿し水やインキへの影響は全くなく、キズ付きによる刷り直しなどのトラブルもありません」

に迅速かつ親切丁寧な対応を実現している。さらにグリーンプリンティング認定取得や国内クレジット制度への参加、FSC COC 認証取得など、環境保全や CSR についても積極的で、なかでも近郊保育園や障害者施設への余り紙の提供は、地域社会とのつながりを深め、印刷会社への信頼と安心を育てる好例といえるだろう。



取締役 生産本部長 志村 清氏



工場長 児玉 茂氏



プリプレス部 伊藤 伸浩氏



プリプレス部 刷版課 田中 浩史 氏



B 縦半裁オフセット輪転機を 6 台保有



先行ユーザーの成功事例が導入を後押し

同社がコダックの完全無処理 CTP プレート KODAK SONORA CX に関心を持ったのは 2017 年のこと。7 月に開催されたコダック主催のセミナーに参加し、先行ユーザーである株式会社アスコン（広島県福山市）の運用事例の話聞いたことがきっかけだった。輪転機 4 台を運用するアスコンとは共通点が多く「それなら自社でも導入できるのでは」と考えて印刷テストの実施を決めた。その目的について、取締役 生産本部長の志村清氏は次のように話している。

「当社の経営方針でもある、環境保全に向けた取り組みのひとつとして製版工程での薬品ゼロ、廃液ゼロを目指しました。輪転機の運用形態がよく似ているアスコン様での使用実績を聞いて、ぜひ挑戦してみようと思いました」

同社が過去に試みた現像レスプレートとは異なり、SONORA CX はガム現像処理すら必要ない完全無処理 CTP プレートである。薬品購入費用や廃液処理費用がゼロになり、現像液の管理やメンテナンスの手間も一切なくなる。完璧な環境対応を実現するだけでなく、コストダウンや時間短縮、省力化といった経営メリットもはかりしれない。ただ多品種・小ロットの仕事が多く版数が膨大な同社にとって、版の取り違いは致命傷となるため、刷版の視認性は絶対条件だった。その点についても、発売当初と比べて視認性を 1.5 倍向上させた SONORA CX なら問題ないと判断し、2017 年 11 月には印刷テストを開始した。実運用を兼ねて約 2 カ月間実施した印刷テストについて、工場長の児玉茂氏は次のように説明してくれた。

「SONORA CX は刷版品質にすぐれ、機上現像による湿し水やインキへの影響は全くありません。当初は刷り出し時の損紙が増えたのですが、それも印刷機の設定を変えることで当社の範囲内に収めることができました。心配していたキズ付きもなく、刷り直しにつながるような大きなトラブルもありません。耐刷性については小ロットからミドルレンジ、大ロットまでテストして、従来の有処理版と同じように何の違和感もなく刷れる刷版だと判断しました」

SONORA CX のコスト削減効果は年間 300 万円

印刷テストの結果は極めて良好で、2018 年 2 月には SONORA CX の正式採用が決まった。当初は 3 ラインある CTP（富士フィルム社製）のうち 1 台で運用がはじまったが、3 カ月後には追加運用が決まり、現在は 2 台の CTP で SONORA CX が使われている。出力版数は月平均 15,000 ～ 18,000 版で、同社が出力する刷版の約 2/3 を SONORA CX が占めるようになった。実運用での耐刷性は最大 25 万

～ 30 万枚。これは 25 万～ 30 万枚を目安に刷版を交換することが同社のルールだからだ。プリプレス部の伊藤伸浩氏は「現像レスによって液交換などのメンテナンスの手間がなくなり、オペレータの負担は大幅に軽減された」と指摘する。同社ではこれまで 3 カ月に一度、あるいは 25,000 版の出力毎に 3 ～ 4 時間かけて現像液の交換などのメンテナンスを行っていた。作業中は当然 CTP がストップし、刷版は出力できない。このため「仕事への影響を最小限にとどめるため 3 台の交換時期が集中しないように神経を使っていた。メンテナンスの負荷軽減に加え、現像による不安定要素が無くなったことは現場にとって大きなメリットになっている」と刷版課の田中浩史氏は振り返っている。志村取締役は、SONORA CX 導入による年間のコスト削減効果を次のように試算している。

「これまでは現像液、ガム液等の薬品の購入費用が毎月 1 台あたり 75,000 円、廃液処理費用が 50,000 円かかっていました。SONORA CX の採用によって、この費用がゼロになるので、年間のコスト削減効果は 2 台合計で 300 万円にも達します」

製版工程の完全無処理化を推進

同社では経営戦略の一環として製版工程の完全無処理化を目指している。ただ印刷資材の 2 社購買は必須なので、3 ライン目の CTP には他社製の無処理版を採用することが決まっている。これによりコストと品質の両面でメーカー同士の切磋琢磨が進み、業界全体の質的向上につながると同社は考えている。そして完全無処理化の先には自動出力、自動版曲げ、自動仕訳といったさらなる省人化・省力化も視野に入っている。チラシ専門の印刷業からオンデマンド印刷、フルフィルメント事業、SP 企画デザインまでを含めた総合印刷企業への飛躍を目指し、営業エリアの全国展開も図っていくという。さらなる成長を目指す同社の挑戦をコダックのソリューションが支え続けてゆく。



株式会社シーズクリエイト

代表取締役社長：宮城 正一

〒581-0034 大阪府八尾市弓削町南 1-18

TEL：072-948-7721

<http://www.seeds-c.co.jp/>

この印刷物は、KODAK SONORA プロセスフリープレートを使用して印刷しています。

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2018-06

